

コロナ禍の下で開催した安全登山指導者研修会の安全対策 —withコロナに対応した研修会開催事例—

和田 真 幸（国立登山研修所専門職）

1. 施設利用について

4月16日全国に発令された国の「緊急事態宣言」により登山研修所（以下、研修所）は4月20日から当面の間、施設利用を休止し閉館することとした。テレワークという言葉はもう馴染んできたように感じるが、この頃は急な在宅勤務により戸惑った方が多いだろう。研修所職員も出勤と在宅勤務を交代して行うようになった。

緊急事態宣言を5月末まで延長する発表だったが5月14日付けで一部の地域を除き宣言を解除する運びとなった。日本スポーツ振興センター本部事務所は東京に位置しているが、研修所は富山県に立地していることから国及び富山県の発令に従うこととした。

同日、スポーツ庁から「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」の発表があり、各スポーツ団体や施設毎にガイドラインを定め自主的な感染防止のための取組みが求められ、研修所においてもガイドライン及び利用団体に向けた感染防止チェック表等を作成した。（図1）（図2）作成にあたってはスポーツ庁策定のガイドラインを参考としたほか、日本スポーツ振興センターHPSC※1、国立立山青少年自然の家、富山県体育協会が指定管理を行っている山野スポーツセンターなどの周辺施設から情報収集、現地視察を行い施設運営再

開の参考とした。

また、富山県内の体育施設と歩調を合わせ、利用再開日程や受入方法（県内在住者から受入れを再開し段階的に県外在住者の受入れをいつ行うか）を決定した。

新型コロナウイルス感染拡大を防止するための対策について(お願い)

<利用団体へのお願い>

宿泊用

以下の3事項に該当する場合は自主的に利用を見合わせてください。

- ・体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

宿泊利用の際は入所から退所まで毎朝・晩に体調を確認し、お一人ずつチェック用紙に記入してください。

体温計およびアルコール消毒液（各団体で使用するための物）は可能な限り利用団体および個人でご準備ください。

マスクの持参および着用（受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際、会話をする際にはマスクを着用してください）を行ってください。

こまめな手洗い、アルコール消毒液等による手指消毒を実施してください。

他の利用者、施設管理者等との距離（できるだけ2m以上）を確保してください。

利用中の大きな声での会話、応援等は控えてください。

宿泊室では密度を避けるため、一部の宿泊人数を減らして利用してください。部屋数を多く使用していただいても構いません。また、こまめに換気を行ってください。

※ 使用禁止のカードがついているベッドはカーテンを開かず、使用しないでください。

講義室や食堂を利用する際は、こまめに換気をし、対面を避けて座る、離れて座るなどの対応を行ってください。

入浴は時間制限を設け、混雑しないように配慮してください。（大浴場5名、中浴場2名を目安）

感染防止のために施設管理者が決めたその他の措置の遵守、施設管理者の指示に従ってください。

退所後に発熱が続く方、医療機関受診者が発生した場合は、速やかに当施設まで連絡をお願いします。

<施設側の取り組み>

- ・職員はマスクを着用し対応いたします。
- ・施設内（玄関、食堂、トイレ前）にはアルコール消毒液、手洗い場にはポンプ型の洗剤を設置します。
- ・所内を定期的に換気し、ドアノブなど不特定多数の方が接触する部分に関してはこまめに消毒いたします。
- ・非接触型体温計を準備いたしますので、必要な方は申し出てください。

JAPAN SPORT
COUNCIL

問い合わせ先
独立行政法人日本スポーツ振興センター
国立登山研修所 TEL.076-482-1212

（図1）新型コロナウイルス感染拡大防止をするためのお願い（宿泊用）
（2020.5）

2. 主催事業の再開

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）に関しては何が正解か、どう動けば良いか不透明なところが多い。新型コロナ新規感染者数は8月以降徐々に落ち着き始めスポーツイベントも再開されていく中、国立登山研修所として新型コロナと共存した研修会開催方法についてモデルや指針を示す必要があると考えた。研修所では8月まで3つの研修会を止む無く中止したが9月に福井県で開催される安全登山指導者研修会（東部地区）の安全で確実な開催を目標とした。

まず研修会再開に向けたガイドライン（図3）を策定した。国や富山県が策定したガイドラインをはじめ、日本スポーツ協会策定スポーツイベント再開に向けたガイドライン、日本山岳・スポーツクライミング協会（以下、JMSCA）など登山関係団体からの「登山再開のガイドライン」を参考とした。

次に専門調査委員会※2において研修会再開に対する助言をいただいた。20名の委員のうち、2名が医師である。医師からはフェイスシールドの有効性について助言いただいた。マスクに加えて着用することでウイルスをバリアする効果があるとのことである。

さらに新型コロナに関する感染防止対策（図4）をHPにも掲載するとともに参加募集要項に同封するなど広く取組みを周知した。参加に当たっては1週間前からの体温をチェックシート（図5）に記載し当日受付で提出を求めた。各スポーツ団体の体温チェックシートをみると2週間前から体温測定を行うガイドラインもある。研修所では新型コロナに感染してから発症まで5

日前後であるという医師からの助言に加えて、長い期間体温測定の記載を求めると計り忘れ、記入忘れも考えられたことから1週間分の測定とした。そして研修会終了10日後、参加者に体調を確認することとした。体調に異常があれば直ちに主催者に連絡するよう参加者に促すが、「便りが無いのは良い便り」のことわざとは逆で主催者としては無事を確認したいので感染から発症まで5日前後であることから10日とした。

体調チェック表(宿泊者用)	
氏名 _____	
① 月 日	【利用前】体温 _____ 度 <input type="checkbox"/> 咳・咽頭痛などの症状はありませんか。 <input type="checkbox"/> 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方はいませんか。 <input type="checkbox"/> 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触はありませんか。 【晩(活動後)】体温 _____ 度 <input type="checkbox"/> 咳・咽頭痛などの症状はありませんか。
② 月 日	【朝(活動前)】体温 _____ 度 <input type="checkbox"/> 咳・咽頭痛などの症状はありませんか。 【晩(活動後)】体温 _____ 度 <input type="checkbox"/> 咳・咽頭痛などの症状はありませんか。
③ 月 日	【朝(活動前)】体温 _____ 度 <input type="checkbox"/> 咳・咽頭痛などの症状はありませんか。 【晩(活動後)】体温 _____ 度 <input type="checkbox"/> 咳・咽頭痛などの症状はありませんか。
④ 月 日	【朝(活動前)】体温 _____ 度 <input type="checkbox"/> 咳・咽頭痛などの症状はありませんか。 【晩(活動後)】体温 _____ 度 <input type="checkbox"/> 咳・咽頭痛などの症状はありませんか。
⑤ 月 日	【朝(活動前)】体温 _____ 度 <input type="checkbox"/> 咳・咽頭痛などの症状はありませんか。 【利用後】体温 _____ 度 <input type="checkbox"/> 咳・咽頭痛などの症状はありませんか。

(図2) 体温チェック表(宿泊用)(2020.5)

新型コロナウイルス感染拡大防止を講じた 研修会再開のガイドライン

1 研修会開催の前提条件

- (1) 緊急事態宣言の解除
 - ・都道府県移動制限の解除
 - ・不要不急の外出自粛の解除
 - ・大学(高等学校)等において課外活動(部活動)が認められている。
- (2) 開催都道府県からイベントの開催が認められている。
- (3) 医療機関に新型コロナウイルス感染症患者受け入れ対応の余裕がある状態である。
(開催都道府県の医療体制および一般診療・救急診療体制に問題ない)
- (4) 研修会に関わる全ての人(所員・講師・研修生など)の健康状態の管理体制を整える。

2 研修会開催にあたっての基本注意事項

- (1) 3密を回避(下記の3点が生じる場所を徹底的に解消する)
 - ・密閉空間(換気の悪い密閉空間である)
 - ・密集場所(多くの人が密集している)
 - ・密接場面(互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる)
- (2) 感染症対策
 - ・こまめな手洗いまたは手指の消毒を行い、手を清潔に保つ。
 - ・スポーツ活動をするとき以外はマスクを着用するなどの咳エチケットを行う。
 - ・施設内のこまめな換気や消毒を行う。

3 研修会前(募集)に関すること

- (1) 人数制限
 - ・3密を回避する観点から、研修生および講師の人数を合わせ**施設最大収容人数の50%以下**となるよう設定する。
- (2) 体調管理
 - ・所員、講師および研修生は、**研修会開催1週間前から当日までの体温および体調を記録し提出を義務**付けることとする。
 - ・新型コロナウイルス感染症が**重症化しやすい基礎疾患**(糖尿病、心不全、呼吸器疾患、高血圧、透析、免疫抑制剤や抗がん剤等使用者等)を持っている者は、参加前に医師の判断を仰ぐよう促す。
- (3) 新型コロナウイルス接触確認アプリ
 - ・所員、講師および研修生は**新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)**を原則スマートフォンにインストールすることとする。

(図3) 研修会再開のガイドライン (2020.7)

(4) 中止に係る対応について

- ・感染拡大状況により、参加募集後に研修会を中止とする場合、事前提出書類に係る諸経費及び健康診断受診等に係る経費に関しては当方では負担(返金)できないことを参加募集要項に明記する。
(安全登山指導者研修会はこの限りではない。)

4 研修会運営に関すること

- ・入所以降1日2回(朝・夕)の体温、体調確認を実施。体調不良者が発生した場合の対応は別表。
- ・講義中やミーティングなど、スポーツを行っていない際はマスクを着用する。
- ・山域は安全性が高くセルフレスキューが容易で既知のルートを選定することとする。
- ・研修班で行動する際(登山行動中も含む)は、屋外であってもソーシャルディスタンスを保ち行動する。
- ・密接場面(濃厚接触)を避けられない研修(搬送訓練等)時は、マスク、手袋、防護服の代替となる雨具等を着用し行うこととする。
- ・長期にわたる自粛等から体力低下の可能性も配慮し、1日の行動時間制限(6時間以内)を設ける。
- ・テント泊を伴う研修(生活技術)は、密を回避できないことから行わない。
- ・感染防御に必要な装備(マスク、手袋、消毒液等)の持参を促す。

5 講師および研修生自身に関すること

- ・指定する登山装備のほか、マスクやビニール袋等、感染防御装備は自身で準備する。
- ・各自の消毒液等で、使用した個人装備や共同装備をこまめに消毒する。
- ・使用後のマスクや鼻水、唾液のついたゴミはビニール袋(密封できる袋)等に入れて捨てる。
- ・装備は極力個人で持参し、研修生同士の装備貸し借りは行わない。

6 施設管理面の具体的な対策

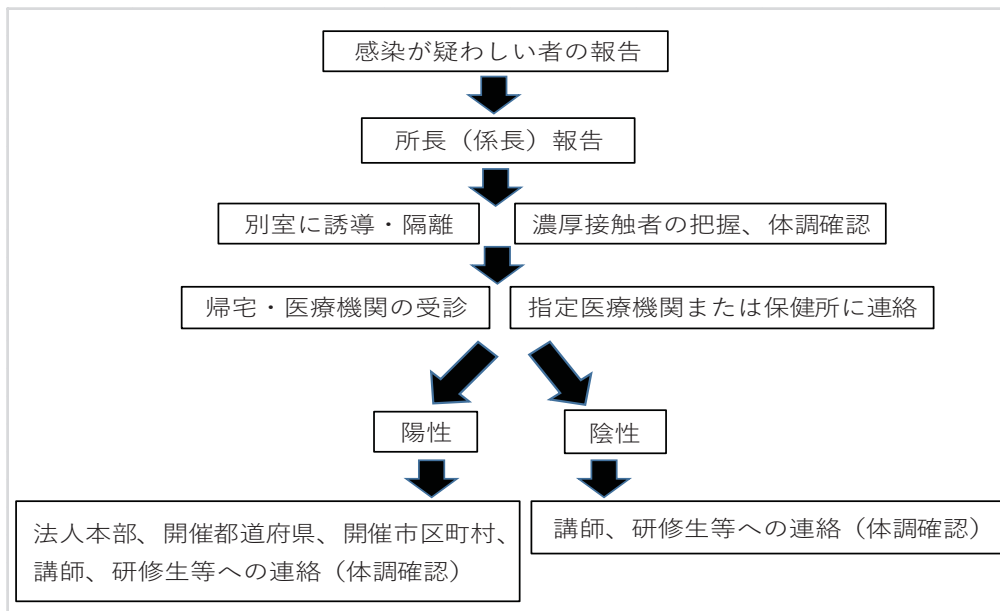
- ・施設内(ドアノブ、ロッカー、テーブル、イス等)を定期的に消毒し、こまめな換気を行う。
- ・施設の入口のほか各所に消毒設備、手洗い場にはポンプ式石鹸を設置する。
- ・宿泊室を1部屋収容人数の50%以下となるよう配置する。
- ・講義やミーティングを行う際は、可能な限り1人1机とし、机の間隔をあける。
- ・入浴は1度に入浴できる者を大浴場5人程度、中浴場2人程度と制限する。
- ・体調不良者が出た場合の隔離室を設置する。
- ・食堂は横並びとし、研修生同士の間隔をあけて着席する。
- ・鼻水、唾液などが付着したゴミは、ビニール袋に入れて密封して捨てることとし、ゴミ袋は適宜に取り換える。

7 研修会後に関すること

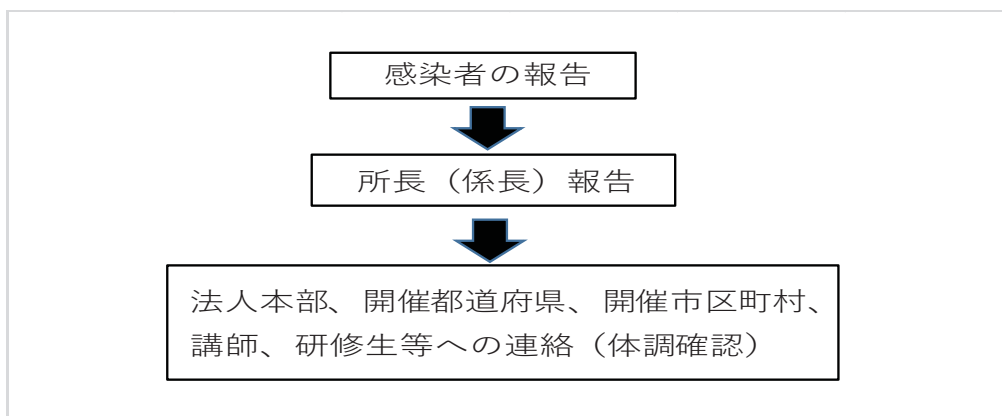
- ・研修会終了後、2週間以内に新型コロナウイルスの感染が確認された場合は報告を義務付けることとする。
- ・感染確認された場合の対応は別表。

(図3) 研修会再開のガイドライン (2020.7)

8 感染疑いが発生した場合のフローチャート(研修会中)



9 感染者が発生した場合のフローチャート(研修会后)



※8、9はいずれも保健所の指示に従うこととする。

10 参考資料

- ・内閣府—新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針(令和2年5月25日変更)
- ・日本スポーツ協会—スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン改訂版
- ・スポーツ庁—社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン(令和2年5月25日改訂)
- ・山岳医療救助機構—CDCの発信に基づいた登山再開に向けた知識
- ・日本山岳ガイド協会—新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針
- ・日本山岳・スポーツクライミング協会—登山再開に向けてのガイドライン
- ・富山県—新型コロナウイルス感染拡大にかかる対策指針について(令和2年5月28日改定)

(図3) 研修会再開のガイドライン(2020.7)

新型コロナウイルス感染防止対策について

1 3密（密閉、密集、密接）回避について

- (1) 宿泊部屋は最大利用人数の50%以下となるようゆとりをもって割り振りし、ベッドや布団の間隔をあけてご使用できるようにします。宿泊部屋の部屋割りは、同じ山岳会（協会）、同じ山岳連盟（協会）のメンバーで割り振ります。さらに、宿泊部屋単位でチームを構成し、食事や入浴等は可能な限りチームで行動します。
- (2) 参加者には、マスク着用、咳エチケット、こまめな手洗い・アルコール手指消毒液等による手指の消毒をお願いします。
- (3) 講義室の座席は指定します。講義中は参加者同士の距離を確保し、こまめに換気を行います。施設内では講師、受講者とも全員マスク着用します。
- (4) 食事や入浴に関して、時間差や対面を避けて座るなどの対応を行い、可能な限り接触機会を避け距離を確保します。
- (5) 食堂の座席は、テーブルの片側あるいは互い違いに座り、前後左右に最低1席分以上の間隔を空けて着席するものとし、参加者間の距離を確保します。
- (6) 入浴は一度に利用できる人数の半分（10名）で利用し、宿泊部屋毎に時間差を設けて入浴します。洗面具等、入浴に必要な用具は各自が専用のものを用意してください。
- (7) 実技研修実施場所には、バスを利用して移動するため、バス内で参加者が一度に密集することのないようバス定員を選定し、乗車順を事前に決定します。
- (8) 登山中および休憩時は距離を確保し行動いたします。また、安全性が高くセルフレスキューが容易で既知のルートを選定することとします。
- (9) 部屋割り、講義室の座席、部屋ごとの入浴時間等は受付時にご案内します。

2 感染症対策

- (1) 主催者はマスクを着用し、応対いたします。
- (2) 施設内（ドアノブ、テーブル、イス等）を定期的に消毒します。
- (3) 可能な限り、講義室の扉は開放し、講義室内の換気に努めます。
- (4) 施設の入口のほか、必要な各所にアルコール手指消毒液、ペーパータオル等を設置します。
- (5) そのほか、施設のルールに応じた対策を行います。

（図4）新型コロナ感染防止対策（11月開催安全登山指導者研修会西部地区）

3 参加についてのお願い

- (1) 研修会開催1週間前から当日までの体温や体調を指定用紙に記録し、提出してください。発熱や咳等がみられた場合は、参加をご遠慮ください。また、研修会中も1日2回（朝・夕）の体調チェックを行います。受講中に体調の変化を感じられた場合は、無理をなさらずに早めにお申し出ください。研修会参加時には、うがい、手洗い、マスク着用など、ご自身での感染予防にも努めていただくようお願いいたします。
- (2) 新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患、高血圧、透析、免疫抑制剤や抗がん剤等使用者等）を持っている方は、参加前（申込前）に医師の判断を仰いでください。
- (3) 研修会終了後、2週間以内に新型コロナウイルス感染が確認された場合は、必ず主催者にご連絡ください。
- (4) 3密を避ける観点から募集定員を削減しております。定員を超えるお申込の場合は、協議の上参加をご遠慮いただく場合がありますので予めご了承下さい。

4 参加後の対応について

- (1) 感染が疑われる参加者・運営関係者が発生した場合、保健所等の公的機関による聞き取りに協力し、必要な情報提供を行います。
- (2) 取得した参加者情報に従い、接触した可能性のある参加者へ情報提供を行い、感染が疑われる症状が発生した場合、医師の診察を受けるよう案内いたします。

5 その他

- 6 自治体にて作成のガイドラインがある場合、それらに準拠し、運営手法に関する齟齬のないよう理解を求めます。

（図4）新型コロナウイルス感染防止対策（11月開催安全登山指導者研修会西部地区）

【提出用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート

本チェックシートは安全登山指導者研修会（東部地区）において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。本チェックシートに記入いただいた個人情報については、厳正なる管理のもとに保管し、健康状態の把握、参加可否の判断および必要なご連絡のためにのみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除きご本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。但し、感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要範囲で保健所等に提供することがあります。

氏名 _____

※体温0.1℃単位の数字を記入し、該当する場合は✓を入れてください。

No.	チェックリスト	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
1	体温（朝）	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
	体温（夕）	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
2	のどの痛みがある								
3	咳（せき）が出る								
4	痰（たん）がでたり、からんだりする								
5	鼻水（はなみず）、鼻づまりがある ※アレルギーを除く								
6	頭が痛い								
7	体のだるさなどがある								
8	発熱の症状がある								
9	息苦しさがある								
10	味覚異常(味がしない)								
11	嗅覚異常(匂いがしない)								

(図5) 体温管理チェックシート

3. 安全登山指導者研修会（東部地区）の開催

研修名：安全登山指導者研修会（東部地区）

日 時：令和2年9月19日(土)～21日(月・祝)

場 所：福井県大野市奥越高原青少年自然の家及び周辺山城

主 催：独立行政法人日本スポーツ振興センター
国立登山研修所公益社団法人日本・山岳スポーツクライ
ミング協会

結果を先に記述するが、本研修会を無事に開催できたこと福井県山岳連盟をはじめ、会場を提供していただいた奥越高原青少年自然の家、福井県スポーツ課、参加者各位にこの場を借りて感謝を申し上げたい。



(写真1) 開会式の様子

というのは、8月下旬に福井県内の感染者が増加し福井県独自の「感染拡大警報」が発令したのである。台風等で直前に中止を決定する災害とは異なり新型コロナと分かっている以上、開催可否を早く決

断し参加者へ伝達することはもちろんのこと、準備を行っている福井県山岳連盟にも可否を判断し連絡しなくてはならないのである。研修所ともう1つの主催団体であるJMSCAは9月4日まで（開催の2週間前）に可否の判断を決断することとした。

研修所で定めた研修会再開に向けてのガイドラインでは、第1として「緊急事態宣言」が発令されていないことを前提条件としている。これは9月4日時点でクリアされていた。次に大事なのは開催都道府県で全国的なイベントを行って良いかである。例えば県外から福井県に訪れ発熱した場合、福井県の保健所に連絡し指示を仰がなくてはならない。あるいは保健所の指示に従い福井の医療機関を受診することとなるため、開催都道府県からのイベント可否に対する指示や意向に従うことが大切である。

研修会開催に当たり約1か月前から福井県スポーツ課に連絡や相談をしていた。（参加者の居住地域リスト送付、感染対策等について）9月4日時点で担当者からは「開催する場合は感染防止対策をしっかり行っていただきたい」と助言をいただいた。福井県では一旦クラスターは発生したものの、その後感染拡大せずにいたため、それらの条件から開催することを決断した。

4. 研修会での感染防止対策

研修会で留意したこととして、研修会前後、研修会中の体温測定やマスク着用、アルコール消毒液の設置、室内の換気、ソーシャルディスタンス確保、厚生労働省開発アプリcocoaの利用促進などを行った。これらに関しては当たり前と言ってよいほど浸透してきた内容で、さらに「フェイスシールドの着用」「アクリル板の設置」「こまめな手指消毒の呼びかけ」を徹底した。

まずフェイスシールド着用である。人と人が接近

する場面においてマスクの上からシールドを付けて二重に飛沫を防止することを行った。医師である講師（水腰英四郎氏・金沢大学附属病院准教授・専門調査委員）が適宜に助言を行い、マスクの付け方やフェイスシールド着用場面を細かく指示していただいた。先にも述べたとおり、このフェイスシールドはウイルスをバリアする効果があり、日常生活で着用慣れていないことから付けた最初は違和感があるものの徐々に慣れて登山行動中でさえ着用する参加者もいた。このシールドを付けることでグループワークなどの密集、密接した研修の際に、感染リスクを軽減することができる。

次にアクリル板の設置である。講義中、同じ机に座った隣人との距離は取れているものの、グループ



（写真2）隣、前後で相談し合う様子



（写真3）2日目登山行動中

2-1. 登山界の現状と課題 特集-登山と新型コロナウイルス-

協議や話し合うことも想定して仕切りを設置し飛沫防止に努めた。相当な枚数を要したため研修所から持参した。

そして「こまめな手指消毒の呼びかけ」を徹底した。既に世の中に浸透した当たり前の対策と感ずるかもしれない。ご存じのとおり新型コロナはウイルスが手についたことで感染、発症するわけではなく、ウイルスが付着した手で目や鼻、口などを触ることで粘膜から感染する。水腰講師からトイレや食事前だけでなく、共有のものを触る前後には必ず手指消毒を行うよう指示があった。発表用のマイクを共有するときも使用前後に手指消毒を行った。また、屋内だけでなく登山行動中においても個人の消毒液を持参し定期的に消毒するように促した。とにかく何かを触る際は必ず手指消毒を行うよう呼び掛けた。

5. 登山行動中の留意点

屋外であっても基本的にはマスク着用とし、密集する場合はフェイスシールドを着用した。(フェイスシールドは折り曲げてザックに収納し持参) また、歩行中は距離が取ればマスクを外しても良いとした。加えて、大声で話すことを避けるため講師にはショルダーマイクを渡しマスクを着用しても研修生に声が届くようにした。

本研修会のファーストエイド研修では、当然、傷病者と接触する際はマスク、フェイスシールド、手袋を着用し、手指消毒を行って万全の体制をとった。

装備は個人装備のみとして他人と装備の貸し借りは避けたいところだが、研修にあたりどうしても個人で準備できないものがある。装備を共有する際は必ず前後に手指消毒を行うようにした。

11月21日(土)～23日(月・祝)香川県で開催した西部地区では福井県同様の感染防止対策に加えて危急時対策研修では、防護服を活用して搬送を行った。

防護服と聞くと頑丈で医療用、一般的に入手できないイメージだが、ここではホームセンター等で販売されているペンキ塗りなど塗装を行う際に使用する不織布でできたつなぎ服を用いた。搬送は密接どこ



(写真4) ショルダーマイクで話す猪熊講師



(写真5) 傷病者に接触する水腰講師



(写真6) 防護服を活用した研修

るか密着するため、皮膚にウイルスが付着しないように万全の対策を行ったわけである。

6. その他生活面

食事や入浴、部屋割り等は施設のガイドラインを遵守した。食事は対面にならないよう交互に座り、入浴は時間交代制（参加人数の多い男性のみ）とした。食事の際には、手洗い場や列に並ぶときも密としないよう施設職員が誘導案内するなど感染防止が徹底されていた。施設の部屋割りは定員の50%以内となるよう設定し、参加者が離れて寝ることができた。また、夏場だったことから窓を開けて換気を十分に行いながら寝られた。

主管である福井県山岳連盟や香川県山岳・スポーツクライミング連盟が独自で準備されたものがあったので紹介する。福井県では使い捨てのスリッパである。スリッパを共有すると履く際に手が触れウイルスが付着する恐れがあるため、使い捨てスリッパに名前を書き共有することがないようにした。

香川県では、食事を盛り付ける業務は各団体で行うよう指示があったため、スタッフは防護服や手袋を着用し完全防備で行った。また、洗面所には普段、備え付けの無いペーパータオル、部屋には掃除用のアルコール除菌シートが設置してあり、何としても感染を防止するという強い思いが感じられた。

7. 参加者からの声

東部地区の参加者からは「各種イベントがオンラインへの変更や中止が相次ぐ中、新しい生活様式を模索する上で実際に開催する意義やその方法を考えるにあたって大変参考になった」「新型コロナ対策においては少し過敏すぎたのではないか」との意見も頂戴した。正直なところ研修所としては新型コロナ対策が足りなかったのではないか、対策が甘いので

はとの意見を覚悟していたところである。福井県山岳連盟や香川県山岳・スポーツクライミング連盟、会場スタッフの皆様、そして参加者の皆様に感謝の一言しかない。

一方、新型コロナ対策は万全の体制だったと言えるかもしれないが、参加者としては登山の研修内容に加えてコロナ対策に関連する連絡事項が多数あり、情報量が多すぎたのではと感じている。また、食事や入浴時間も限られていることから日程が大変慌ただしかったと感じている。コロナ対策を入念に行うということ＝いつも以上にスケジュールに余裕を持つことであると実感した。

8. おわりに

福井県での事例を踏まえて「山岳遭難救助研修会」「安全登山指導者研修会（西部地区・香川県）」を開催し、10日後に参加者全員から体調異常がないことを聞くと安堵した。例年安全登山指導者研修会ではスタッフと講師、参加者を交えて情報交換会を行っている。当然、本年は行っていないが、またいつか開催できる日が来ることを切に願っている。



(写真7) 全体に説明を行う北村講師

〔注釈〕

- ※1 HPSC ハイパフォーマンススポーツセンターの略「国立スポーツ科学センターとナショナルトレーニングセンターの連携」及び「日本オリンピック委員会・日本パラリンピック委員会、日本スポーツ振興センターの連携」のために発足した組織。東京オリパラアスリートの練習拠点施設。

- ※2 専門調査委員会 登山の指導・技術の向上に関する調査研究および研修の効果的な運営に関する調査研究のために研修所で設置している委員会。20名の専門調査委員。

(参考とした新型コロナに関するガイドライン)

- ・内閣府—新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針
- ・日本スポーツ協会—スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン
- ・スポーツ庁—社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン
- ・山岳医療救助機構—CDCの発信に基づいた登山再開に向けた知識
- ・日本山岳ガイド協会—新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動指針
- ・日本山岳・スポーツクライミング協会—登山再開に向けてのガイドライン
- ・富山県—新型コロナウイルス感染拡大にかかる対策指針について